

# 小学校6年生を対象にしたOODAループを用いた 授業実践

～児童の思考力・表現力・判断力を高めるために～

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

小栗 大輝

現在、我々が生きる社会は、情報化社会、グローバル化などを含めた、予測が困難な「VUCA時代」と呼ばれる。社会や産業が大幅に発展してきており、教師の指導法もそれに適応していかなければならないと考えられる。現代の小学校教育は、さまざまな思考ツールが用いられている。例えばジグゾー法や、PDCAサイクルなどである。しかし、児童たちが生きていく社会は産業発展が急加速度的に進んでおり、PDCAサイクルのような即応性のない思考ツールを用いるよりも、OODAループのほうが適切であると考えた。本研究は、OODAループを用いることで、歴史の出来事に対し多面的・多角的な視点から、状況判断を行い考えを深めることにより、知識の暗記に陥りがちな歴史教育において、様々な要因が重なり史実が成り立っているという事を理解させることで、児童たちに思考力・表現力・判断力を身につけることができるのか否かを検証することである。本稿では、1単元の実践結果をふまえ、今後の課題を考察したい。

（キーワード）OODAループ 歴史教育 思考力・表現力・判断力